

# まずは、凡事徹底を貫くことから

Y G 大学：教育学部・教育学科・3年

期間：令和2年9月17日～21日（5日間）

私はこのインターンシップを通じて、凡事徹底の大切さを学びました。

私が今回インターンシップをさせていただいた株式会社Nでは毎日朝礼、一斉清掃を行っていました。朝礼では社訓を唱和し、各部署の本日の行動予定を共有します。朝礼を行うことで社訓を心がけつつ、新鮮な気持ちで1日をスタートさせることができます。掃除をすることによって心をすっきりできます。株式会社Nでは先ほど述べた朝礼や掃除だけでなく、外にでるときには「いってきます」「いってらっしゃい」、戻った時には「戻りました」「おかえりなさい」など挨拶が徹底されていたりと、社訓が社員一人ひとりに沁みこんでいました。お客様が来られた時は全員で出迎え、お見送りをする姿は圧巻でした。株式会社Nの社訓は、業種を問わず社会人であれば誰でも通ずることです。今の私にはできていないことが多々あったので、残りの大学生活でしっかり身につけて社会に出たいと思います。

私はこの5日間のインターンシップで、現場監督と営業の仕事を体験させていただきました。現場監督は、予定通りに家が完成するようお家づくりを任せる工務店や庭師、タイル職人などを決め、日程を調整する責任重大でとても難しい仕事です。1日にたくさん現場をまわり設計図をもとに予定通り作業が行われているかを確認したり、職人さんの疑問を解決したりします。今回のインターンシップで家づくりには想像以上に多くの職人さんが関わっていると知りすごく驚きました。こんなにたくさんの方を1人で動かす現場監督は、本当に偉大な存在です。営業の仕事ではお客様の一人ひとりのタイプに合わせた接し方を学び、営業活動の一環として実際に会社周辺のポスティングを行いました。「営業をする上で必ず全てのお客様が自分に合うわけではない。だからこそお客様一人ひとりに満足していただくために、一人ひとりにあった話し方、内容、テンポを意識しないといけない」という言葉がすごく印象的でした。

社長は『農業をしたい』という夢、専務は『自分が社長になり、家をこれからもっともっとたくさん建て、「やっぱりここ（この会社の家）が1番だね」と言ってもらえるような地域に愛される会社にし、様々な事業を通して地域を発展させたい』という夢をもっておられました。ほかの社員さんも自分のためだけではなく、次期社長である専務のビジョン達成のため、会社の存続のために日々働いていておっしゃっていました。上に立つ人の思いが社員みんなに届き、社員が会社のために働く、組織の理想形だと思いました。

会社の組織がしっかりと成り立っているのは、凡事徹底がなされており一人ひとりが人としてきちんとしているからだだと思います。社会人として大切なことをたくさん学べた非常に有意義な5日間となりました。お世話になりました。ありがとうございました。

# 学生と社会人の違い

U高等専門学校：電気工学科・4年

期間：令和元年9月9日～13日(5日間)

私は、5日間I株式会社でインターンシップをさせていただいた。この実習を通して、私は学生と社会人の違いを感じた。電験や電気工事士などの資格を持っていないため、インターンシップの内容は簡単な工作や見学が主だった。

私は学校で電気工学について学んでいる。そのため電気回路についての知識はあったが、電気工事に関する知識はほぼ無かった。したがって初日はどのような手順で仕事が行われているのか説明を受けた。そこで工事施工前の社内確認書というのを見せていただいた。そこには契約や安全確認、品質確認などについて55個ものチェックリストがあった。このように社内から丁寧に点検することで会社同士の信頼につながると感じた。

座学が終わった後は工作を教わりながら行った。内容は導線を釘で打ち固定したり、電線管をガスバーナーで曲げたりした。学校ではこのような実技をすることはなかった。そのためやること全てが初めてのことで慣れないことが多かった。しかし、このような工作は電験の資格を取るのに必要な技術であり丁寧に教えていただくことができるとも勉強になった。これらの作業を1、3、4日の計3日間行った。

2日目は航空自衛隊の基地内を見学した。避雷針や雨量測定器、地表温度計のデータを管制塔へ送るものを見学させていただいた。実物を見るのは初めてだったが1つ1つの部品の役割を丁寧に説明していただきよく理解できた。また電気とは関係はないが飛行機が飛ぶところを間近で見ることができた。一般人が簡単には入れるような場所ではないため貴重な時間を過ごすことができた。

5日目に仕事内容だけでなく働くうえでの心構えまで学ぶことができた。働いている人と交流して、一人一人が責任感を持って仕事に臨まなければ大きなミスや事故に繋がることを感じた。ここが学生とは違う点だと考えた。さらにインターンシップに参加するまで仕事の内容は勉強の内容と深く関係があると思っていた。しかし全く関係がないわけではないが現場での実務経験が必要だと感じた。資格などを取るためには勉強が必要なので続けていきたいが勉強だけが必要ではないことを知ることができた。このような貴重な場を設けていただいたI株式会社の皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

# 大学で学んだことを仕事に

Y大学：農学部・生物資源環境科学科・3年

期間：平成30年8月17日～30日（10日間）

私は、10日間Y連合会でインターンシップをさせていただいた。その中で実際に行った業務として、岩国市で発生した災害の現地踏査、パソコンのソフトであるAUTOCADを用いた災害設計、復旧工事積算等災害関連の業務、また鳥獣害撃退装置設置、用水計画作成作業などの業務を体験した。

大学では、測量学や水理学の講義を受講しており、マニング式などの公式等は学んだが、実際にどの場面で用いることがあるだろうかと疑問に思っていた。今回の実習で用水計画の作成時に用いることが分かった。また、大学では導入の部分しか学べないことが多く、実際に学んだことがどのように使われているのかが疑問に思っている部分が多かったが、実習後には疑問が少し解消された。

大学では研究室に配属され、普通作の栽培系の研究を始めるにあたって、普及しつつある地下水位制御システムであるFOEAS原理等も学ぶことができた。

私は、インターンシップ体験前は、Y連合会という組織は、圃場整備やFOEASなどの農業土木専門と考えていたが、今回の体験で農村整備全般の事業の計画、設計、工事の施工管理等がされていることが分かった。特に農村地域のため池の整備計画や改修工事にかかる実施設計、農業集落排水施設の整備や保全支援、再生可能エネルギーの導入支援、各集落での農地や水路・頭首工等の保全活動の多面的機能支払交付金制度の支援、災害発生時の災害復旧支援など、各土地改良区などの会員へのサービスを目的とした組織であることが学べた。私も、実家が農家で農地や水路の簡単な補修等は行ってきたが、今回の体験で職員の方に色々と質問をして、農地や水路等の改修方法について詳しく教えていただき自分の能力アップにつながった。また実習期間中には職員の方で農家の方がいらして、休憩時には農業の話などで話が盛り上がる場面もあり、最初は緊張した場面もあったが、だんだんとリラックスすることができた。

実際に10日間、職員の方々と同じ時間に出社して同じ休み時間を体験することで、これから社会に出て働くということがどれだけ大変であるかということが学べた。特にパソコンを使った業務が大半をどの職種でも占めると考えられ、実際に土地改良事業団体連合会でも設計書作成などはパソコンのソフトを用いることから、パソコンの代表的なソフトの使い方やデータのまとめ方等を大学在学中に学んでおくべきだと感じた。また、大学で学んだことが将来の仕事に関係したり役立つことがあるため、大学で学んだことをテストだけで終わらせるのではなく、今後も生かせるようにしておくことが必要であると感じた。

私は、山口県内の農業関係の職に就きたいと考えており、今回のインターンシップは大変大きなものを得ることができ、今後の就職活動にも大変参考になるものとなった。特に、職員の方に実際に働く上でのやりがいなどをお聞きすることができ、大変おおきなものを得ることができた。今回のインターンシップでは、大学の講義の関係で10日間という長い実習にもかかわらず、そして今年の西日本豪雨の災害で大変お忙しい中でいろいろな体験や現場等での実習をさせていただき、Y連合会の皆さんに大変丁寧に指導していただいた。大変ありがとうございました。

# 実際の現場を見学して学んだこと

Y大学：工学部・社会建設工学科・3年

期間：平成29年8月28日～9月1日（5日間）

H建設株式会社という建設会社に5日間、インターンシップに参加した。インターンシップの概要としては、5日間でH建設株式会社という会社について、建設業について、また実際に現場を見学し、機械の説明や舗装工事の仕組みについて学ぶことが出来た。

今回、切削オーバーレイ工事という道路の舗装の現場に行った。工程としては、既存のアスファルトを剥ぎ、剥いだ後の道路を掃除して、道路とアスファルトを引っ付けるための乳剤という接着剤をまき、アスファルトを2層に分けて敷き詰めるという作業だった。アスファルトの温度は、アスコンから運ばれて来る時点で、170℃ほどあり敷き詰めるときでも、150～160℃はある。

アスファルトの温度とまた、外での作業ということで太陽との日差しもあり、とても暑い中の作業となっていた為にとっても大変な現場であった。一番過酷な現場と言われているところを見学することができた。見学するだけでもとても暑く、体力勝負なところがあり、女性にはつらい現場であると思った。建設業界において女性も少しずつ進出していて、女性でも就きやすくなっているが、まだトイレなどの問題はあり、今回の現場でもトイレが近くにないため、そういった所でも女性にとっては大変な仕事であることが分かった。

現場監督というのは実際に作業するわけではなく、作業する技術員の人に指示したり、管理のための作業中の写真を撮ったり、アスファルトがどれだけ必要でそのためにはダンプが何台いるかを、アスコンにお願いしたりする仕事をしていた。

作業効率とお金のバランスを考えながらしないとイケなく、その中で失敗があればもちろん監督の責任であるため重い立場である上、また年上の男性の技術員の人に意見しないとイケないこともあり難しい立場であることが分かった。

体験前と体験後で変わったことは、現場の人とのコミュニケーションが大切であることを再認識することが出来た。監督と技術員とのコミュニケーションが取れていないと、作業が上手くいかないために大切であると分かった。

また、実際に現場に行ってみて、初めは特に自分から自主的に動くことが出来ず、ただ現場を見ておくことが多く、監督の人から教えてもらい動くことしかできなかった。実際に働いている人はもちろん忙しくしていて、インターンシップ生にかまっている暇もないために、自分から出来ることはなにか、疑問に思ったことは質問にいかないといけないことを学ぶことが出来た。

これは、就職してからも大切になってくるため、今回で学ぶことが出来て良かったと思う。

今回のインターンシップで建設業の中でも、外に出て現場で仕事することを体験することが出来、どういう仕事をするのか、どれほど大変なのかを少しではあると思うが学ぶことが出来た。

今後の抱負としては、他の建設業についても調べて自分が興味をもてる仕事を探し、今回のインターンシップの経験をいかして就職活動に役立てていきたい。

5日間お世話になりました、有難うございました。

# 社会人として必要なもの

Y大学：工学部・社会建設工学科・3年

期間：平成28年8月22日～26日（5日間）

私は、コンサルタント会社でインターンシップをさせて頂いた。土木関係のコンサルタントは、主に国、県などの公共機関から発注を受け、土地の調査、構造物の設計などの業務を行っている。

私は、インターンシップで研修を受けるに当たって、大学で学んでいることは実際に仕事をする際にどう生かされていくかということを知りたいと思っていた。私は、大学で土木を学んでおり、授業では土や水による圧力の計算など基礎的なことから、測量機器の取り扱い方など実務的なことまで行っている。学校で勉強していることが何の役に立つのかなどということが話題になることがあるが、私は、学んだ知識は必ず何らかの役に立つし、現象や仕組みの理解の仕方、物事の調べ方やまとめ方など別のことを行う際に利用できることは多いと考えている。そこで、実際の業務を少しでも経験することでそのことが多少でも実感できればと思い研修に臨んだ。

インターンシップでは、研修先の会社の業務内容について学ぶため、日ごとに別の部署の方に付いて行き、プロジェクトについての説明を受けたり、実際の作業現場を見学させて頂いたりした。私が全研修を終えて強く感じたのは、社会では様々なスキルが求められるということである。

他の人たちと連携して作業を行う時、自分の中にはトップにまとめる人がいて、その下で全員が同じ作業を行うというイメージがあった。学校で行う授業などはこうであると思う。しかし、実際はそうではなく、各人が別の作業を行っていながらそれをつなぎ合わせ一つのものにするといった方が、連携作業を行う上では、正しいイメージのように思えてきた。この時、個人に求められるのは専門的なスキルと他とのコミュニケーション能力である。

研修中、PCでの設計などはもちろんのこと、試験室での実験や現場での踏査など作業を一人で行うことが多かった。例え、同じ場にいたとしても、各人の担当していることは異なることが多く、専門的な知識や機器の操作など、個人個人に求められることは多いと感じた。

また一方では、仕事の依頼を受ける、調査を行う、設計を行う、という一連の流れは存在し、これらを連携して確実に行うためには、物事を正しく伝える必要がある。日常生活のコミュニケーションと仕事でのそれには、いくつか重要な違いがあると思う。一つは、仕事では専門的な内容を含むという点である。現場の作業で重要なことの一つに地元への配慮があった。専門的な内容は、それに詳しくない人には説明が難しい。技術のある人には、それを分かりやすく伝える能力が求められると思う。

加えて、伝わらなかったからといって、あいまいなままでは済まされないという点である。これはお金をもらって仕事をし、正しく評価してもらうために重要であると思った。

結論として、大学で学ぶことは全く畑違いの職種につかない限り役に立つと思う。実務的な内容は、例え、自分が実際の作業を行わなくても知っていることで円滑に会話が出来るとし、基礎的な内容もコンピュータがすべて計算してくれる場合も理解していることで様々な事態に対応出来るのではないかと考える。

今回のインターンシップを通じ、社会人として、専門的なスキルやコミュニケーション能力が求められているということを実感することが出来、とても有意義であった。ありがとうございました。